

今月の重点活動

■スマート農業 ラジコン草刈り機の現地試験を実施

畦畔率の高い中山間地域では、畦畔管理に多くの労力と経費を要する。また、草刈作業は暑い時期に人力で行うため、作業者への負担が大きく省力的な除草方法が望まれている。

山県市の農事組合法人おおがでは、直進アシスト田植機やドローン、ラジコン草刈り機などを利用したスマート農業に取り組んでいる。

10月13～14日にぎふスマート農業推進センターからレンタルしたラジコン草刈り機2機と自社所有機1機と合わせて操作性や作業時間などの試験を行った。農業普及課もこの試験に立合い実用性や作業効率の確認を行った。

農業普及課は、今回の試験結果を他の担い手へも紹介し、中山間地域でのスマート農業を推進していく。

(地域支援第三係・河合 浩子)



【ラジコン草刈り機】

多様な担い手づくり

■いちご いちご勉強会の開催

10月8日、JAぎふ合渡支店にて、就農4年目までの生産者を対象にした勉強会を生産者14名が出席し開催した。最初に各生産者に、本年作で最優先で取り組むことなどを発表してもらった後、農業普及課から安定した生産、経営を目指すため、「計画」、「記録」、「自分の頭で良く考える」の3点が最低限必要であることを説明した。

最後に2名の先輩農業者から、これまでの経験や自分のこだわり、考えなどをもとにした助言をしていただいた。

農業普及課は、今後も可能な限り同様の研修会を企画するとともに、研修会をきっかけとした生産者の交流が活発になるよう活動していく。

(園芸産地支援第一係・菊井裕人、園芸産地支援第二係・三和浩一)



【勉強会の様子】

売れるブランドづくり

■アスパラガス ハウス内の排水不良解消を目指して

アスパラガス栽培で、排水不良が原因と思われる生育不良や病害、滞水や藻によって通路が歩きにくいことなど、問題があるハウスが見受けられる。また、ハウス周囲に排水溝が設置されているが通路が湿気っている場合もある。そこで排水不良の解消を目指し、適した排水方法を提案するため、簡易の地下水位測定装置を設置した。定期的に水位を確認した後、改めて排水設備を設置し、効果の確認を行う。効果確認後、生産者に情報提供しハウスの滞水解消につなげたい。



【地下水位測定の管】

(園芸産地支援第一係・佐藤 博)

■冬春トマト 養液分析で適正管理を

糸貫トマト振興会では、7月29日から定植した冬春トマトの共選出荷が10月2日より始まり、来年7月までに540tの出荷を予定している。振興会会員9名のうち5名が養液栽培に取り組んでおり、農業普及課では適正な養液管理のため給液と排液の分析を定期的に行っている。

10月20日には県農業技術センターの原子吸光度計などを借用し23点の調査を行った。この結果は対処方法と併せて各会員に報告し、養液管理のための指標として活用されている。



【養液分析の様子】

今後も農業普及課は定期的に養液分析を実施し、冬春トマトの単収と品質の向上を支援していく。

(地域支援第三係・山田 奈巳)

■水稲 **令和3年産水稲栽培暦検討会を開催**

10月9日、JAぎふ巣南支店にて、JAぎふ（米穀課及び資材課担当者）、JA全農岐阜、岐阜農業普及課の水稲指導の関係者15名を参集し、令和3年産水稲栽培暦の検討会が開催された。

検討会では、農業普及課から令和2年産水稲の作柄について説明した後、今年の病虫害発生状況や農薬・肥料展示の結果を踏まえた令和3年産栽培暦の変更点について提案を行った。

特に今年被害の大きかったウンカ類への対策としての箱施薬剤の変更と、初中期一発除草剤の変更について検討した。

今後は、水稲暦の変更点について、各地域のJA担当者への説明会を開催し、水稲の安定生産を図っていく予定である。

(地域支援第一係・小島 康平)



【研修会の様子】

■カキ **早秋・太秋・早生富有柿出荷開始、富有出荷目揃え会開催**

岐阜管内の各選果場では、10月5日の早生品種「早秋」「太秋」を皮切りに、15日より中生品種「早生富有」の出荷が始まった。各産地では良品質な柿の出荷に向け、出荷目揃え会や市場との情報交換会が行われている。

本年の柿栽培では、春期からのカメムシ類の発生、梅雨時の多雨・日照不足、8月の高温・干ばつによる日焼け果の発生や、突風によるキズ果の発生などみられたが、出荷目揃え会で各生産者へ家庭選果の徹底が呼びかけられ、選果場においても品質を落とさないよう選果基準の徹底が図られており、高品質な柿の出荷が行われている。

10月下旬には、11月から始まる主力品種「富有」の出荷目揃え会も各産地で開催され、農業普及課では、収穫作業や栽培管理の注意点等の情報提供を行い、高品質果実の出荷に向けた支援を行っている。

<柿出荷に向けた各種行事>

○早生富有柿出荷目揃え会

10/11 瑞穂市柿振興会、10/14 岐阜市柿共販振興会 10/15 羽島市柿出荷組合
10/11 マル糸振興会

○富有柿出荷目揃え会

10/24 マル糸柿振興会、10/30 北方町柿部会
10/24 瑞穂市柿振興会、11/5 岐阜市かき共販振興会

(園芸産地支援第二係・小枝俊仁、水野文敬)



【選果場出荷打合せ
選果場(巣南選果場)】

住みよい農村づくり

■ジャンボタニシ **産官学が連携して対策を協議**

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）は田植後の水稲を食い荒らす外来生物であるが、増殖力が強く近年の暖冬気象も加わり被害と生息域が拡大傾向にある。今年度、JAぎふでは県のジャンボタニシ被害対策推進事業を活用し、冬季代かき・入水口への侵入防止網の設置・二価鉄を利用した食害軽減資材の現地試験を瑞穂市居倉地区で行ってきた。

10月6日にはJAぎふの他、農業普及課、岐阜大学、瑞穂市、資材メーカーなど8名が参集して被害対策打合せ会議が開催された。当日は試験水田を巡回すると共に効果的な対策について検討を行う中で、農業普及課より深水水田や遅植えで被害が多い事を報告し、地域全体での駆除作業や水田の均平性について議論された。ジャンボタニシ対策は、田植後の農薬施用だけでなく冬耕起・均平水田・入排水口からの侵入防止・浅水管理・産卵直後の卵塊除去など色々な栽培管理を組み合わせる必要があり、今後もジャンボタニシの被害撲滅に向けて支援を続けていく。

(地域支援第三係・松本 政行)



【試験水田巡回】